

●プレゼンテーション

血漿中 FDP,D ダイマー測定試薬ナノピア P-FDP,ナノピア D ダイマーのご紹介 ○吉川 晶子(第一化学薬品株式会社 マーケティング部)

【はじめに】

FDP はフィブリノゲンおよびフィブリンの分解産物の総称で一次および二次線溶の指標として用いられ、D ダイマーは二次線溶の指標として用いられています。弊社では、血漿 FDP 測定試薬「ナノピア P-FDP」および D ダイマー測定試薬「ナノピア D ダイマー」を発売しており、その製品性能を紹介いたします。

【製品の特徴】

1) ナノピア P-FDP

- ①測定範囲が広い (2.5~120 $\mu\text{g/ml}$)
- ②D 分画を捉える

2) ナノピア D ダイマー

- ①測定範囲が広い (0.5~60 $\mu\text{g/ml}$)
- ②総 FDP 値と逆転しない (ナノピア P-FDP 使用時)
- ③D ダイマー分画をすべて捉える

【試薬性能】

CR800 型自動分析機を用いて以下の結果を得た。

1) 同時再現性 (同一検体を 10 回連続測定にて確認)

FDP : mean 11.5 $\mu\text{g/ml}$ 、C.V. 1.11%

D ダイマー : mean 0.98 $\mu\text{g/ml}$ 、3.55 C.V. %

2) 希釈直線性

FDP : 120 $\mu\text{g/ml}$ まで直線性を認めました。

D ダイマー : 60 $\mu\text{g/ml}$ まで直線性を認めました。

3) プロゾーン現象

FDP : 660 $\mu\text{g/ml}$ までフック現象を認めませんでした。

D ダイマー : 160 $\mu\text{g/ml}$ までフック現象を認めませんでした。

両試薬とも分析機のプロゾーンチェック機能を使うことによりプロゾーン現象を回避できます。

【まとめ】

ナノピア P-FDP は血漿試薬であるため FDP 専用採血管は不要であり、患者負担を軽減できます。ナノピア P-FDP は D 分画を捉えるため、ナノピア D ダイマーとの併用により、一次線溶、二次線溶の鑑別も可能になります。これらのことから、「ナノピア P-FDP」、「ナノピア D ダイマー」は日常検査に貢献できるものと考えます。連絡先 : 03-3272-0827